

日本糖尿病学会 学会賞「リリー賞」を受賞
薄井 勲 富山大学大学院医学薬学研究部助教

この度、富山大学大学院医学薬学研究部、薄井 勲（うすい いさお）助教が、平成 22 年度日本糖尿病学会の学会賞である「リリー賞」を受賞しましたのでお知らせします。

薄井助教が受賞する「リリー賞」は、主に国内で行われた糖尿病研究の業績を評価の対象とし、46 歳までの規定があります。全国の糖尿病研究者のなかから、毎年 1~2 名が受賞しています。

受賞の研究題目は「2 型糖尿病のインスリン抵抗性における炎症の役割」となっております。

表彰式ならびに受賞講演が下記の通り行われました。

表彰式

第 53 回日本糖尿病学会総会のなかで

平成 22 年 5 月 27 日（木曜）午前 9 時 30 分から

ホテルグランヴィア岡山 フェニックス

受賞講演

平成 22 年 5 月 27 日（木曜）午前 10 時 50 分から

ホテルグランヴィア岡山 フェニックス

受賞理由となった業績

受賞の研究題目：「2 型糖尿病のインスリン抵抗性における炎症の役割」

肥満症や 2 型糖尿病患者には、血糖降下ホルモンであるインスリンが効きにくくなる状態である「インスリン抵抗性」が存在します。肥満に伴い内臓脂肪組織には炎症細胞である M1 マクロファージが浸潤し炎症性サイトカインを産生しますが、この炎症性サイトカインがどのようにインスリンシグナルを抑制して血糖値を上昇させるのかを、薄井助教は細胞レベルで詳細に解明した。特に、複数の炎症性サイトカインが相乗的にインスリンシグナルを抑制する、という新しい概念を提唱しました。また逆に、内臓脂肪には抗炎症の特徴を持つ M2 マクロファージも浸潤します。薄井助教は M2 マクロファージに高発現する抗炎症性サイトカインのひとつ、インターロイキン 10 がインスリン抵抗性を改善させることを新たに見出しました。

この研究成果は、肥満症や 2 型糖尿病の成り立ちを理解する上で重要な情報を与えるばかりでなく、カロリー制限や減量による代謝疾患の効率的な治療法の開発につながる新たなターゲットを示した点で価値ある業績と言えます。15 年に及ぶ薄井助教の一貫した研究の流れが評価されました。